

今に生きる ひと 偉人



【作者】冷泉為恭 【作品名】囲碁図(部分) 【所蔵先】東京国立博物館
image: TNM Image Archives

■ 平安の対局

平安時代の囲碁の名人。日本で初めて『碁聖』と呼ばれた人物。913(延喜3)年、『碁式』(囲碁のルール)を醍醐天皇に献上しました。宇多・醍醐両天皇に仕え、一条兼良の『花鳥余情』(1472(文明4)年成立)によると、『備前掾橘良利肥前国藤津郡大村の人也。出家して名を寛蓮という。』とあります。肥前国藤津郡大村とは、鹿島市の大村方付近と考えられ、鹿島市行成付近には、橘氏との関係を記す、「橘園」という地名が残っています。



■ 祐徳本因坊戦

毎年5月頃、祐徳稲荷神社の参集殿において祐徳本因坊戦が行われます。



■ ヒカルの碁

放課後子どもプランの一環として、子どもの居場所作りを当初の目的として開始されましたが、碁基本来の持つ魅力を子どもたちに指導することで、「礼儀」や「忍耐力」、「世代間交流で養う人間性」など次代の鹿島市を担う子どもたちの育成の場ともなっています。

碁聖寛蓮



■ 天元戦

7大棋戦の一つ天元戦。1987年に鹿島市で開催されてから26年ぶりに祐徳稲荷神社で行われました。